

地震・火山活動が活発化し、自然災害が多発する中、400MHz帯の気象・地象観測用周波数について、新たな伝送方式を検討することにより周波数の有効利用を図り、防災・減災に資することを目的として調査検討会を開催する。

①概要

背景

- ・地震・火山や気象観測ニーズの増大
- ・多様な伝送方式の出現

課題

400MHz帯気象援助局等の利用は低調(伝送容量やコストの点で有利な代替手段として他の周波数を利用した携帯電話、無線LAN等の利用が多い)

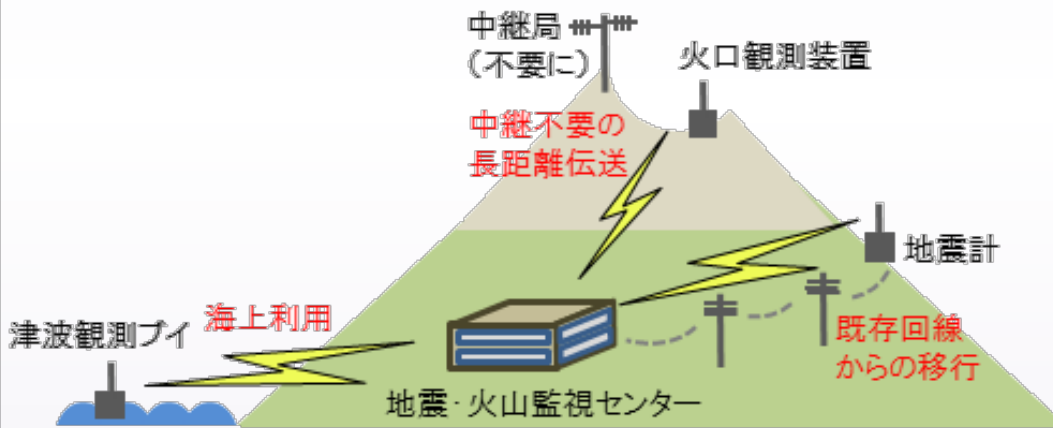
検討事項

IoTやM2Mのデータ伝送手段として注目されているLoRa方式の導入について検討を実施

目的・成果

- ・LoRa方式など選択肢を広げ、当該周波数の利用を促進し、防災・減災を推進
- ・伝搬試験データは、防災通信等にLoRaを導入する際の検討資料として活用可能

②利用イメージ



③試験内容及び提案内容(案)

LoRa方式及び比較のための他方式による伝搬試験を実施

- ・山岳回折、海上伝搬試験を含む
- ・LoRa方式は遠距離通信可能だが、伝送速度が低いため、CH結束利用による伝送速度向上の試験も実施

400MHz帯気象援助局、地震・火山噴火予知観測用周波数について、CH結束利用を可能にするための技術基準(周波数配置・占有周波数帯幅等)について提言するとともに、LoRa方式の活用方法を提案

④スケジュール(予定)

平29.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平30.1月	2月	3月
	● 第1回 検討会	▲ ニーズ 調査	● 第2回 検討会	▲ 実証試験		● 第3回 検討会		● 第4回(最終) 検討会	